

## JENESYS 2.0

### 中国青年メディア関係者代表団第1陣

訪問日程 平成25年3月10日(日)～3月17日(日)

#### 1 プログラム概要

中国国務院新聞弁公室が派遣した中国青年メディア関係者代表団第1陣計87名が、3月10日から3月17日までの7泊8日の日程で来日しました。

(団長：武虹剣(ブ・コウケン) 中国国務院新聞弁公室国際局局長)

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本のメディアに関する視察、交流のほか、今回のテーマ「クールジャパン(コンテンツ産業・伝統工芸)」に基づくブリーフ、視察、関連機関・施設の訪問、取材等、さまざまなプログラムを実施し、日本に対する包括的な理解を深めました。

#### 2 日程 (※①:第1分団、②:第2分団、③:第3分団)

##### 3月10日(日)

成田空港着、オリエンテーション兼夕食会

##### 3月11日(月)

外務省訪問・ブリーフ(テーマ:『広報文化外交の現状』 講師:外務省広報文化外交戦略課 首席事務官 岸守一)、メディア訪問(①共同通信社、②NHK、③フジテレビ)、日中友好会館主催歓迎会

##### 3月12日(火)

東京大学先端科学技術研究センター訪問・レクチャー(テーマ:『グローバル化する大気環境問題』 講師:東京大学先端科学技術研究センター 准教授 竹川暢之)、クールジャパンに関する自由取材(テーマ:「日本のここがクール」①渋谷、②原宿、③秋葉原)

##### 3月13日(水)

地方へ移動(①・②青森県、③北海道)

<青森県>メディア訪問(①・②東奥日報社)

<北海道>メディア訪問(③北海道新聞社)

##### 3月14日(木)

<青森県>弘前城公園(①・②)、田中屋工房「津軽塗資料館」視察・レクチャー(①)、津軽藩ねふた村参観・ねふた嚙子体験・津軽三味線に関する視察・レクチャー・体験(①)、奥膳懐石翠明荘にて郷土料理・日本のもてなし文化に関する視察・レクチャー・体験(②)、青森県産業技術センターりんご研究所訪問・りんご栽培に関する視察・レクチャー(②)、和風温泉旅館で日本文化体験(①・②)

<北海道>クリプトン・フューチャー・メディア(株)訪問・バーチャルアイドル“初音ミク”に関するレクチャー(③)、“初音ミク”関連コンテンツ視聴(③)、都市ブランド戦略に関する札幌市レクチャー(③)、和風温泉旅館で日本文化体験(③)

**3月15日（金）**

＜青森県＞ねぶたの家ワ・ラッセ参観（①・②）、東京へ移動

＜北海道＞白い恋人パーク工場見学（③）、東京へ移動

**3月16日（土）**

江戸東京博物館・浅草寺・仲見世参観（①）パナソニックセンター東京・地方自治体アンテナショップ視察（東京交通会館内）視察（②）、三鷹の森ジブリ美術館・深大寺参観（③）、商業エリア視察、歓送報告会

**3月17日（日）**

羽田空港より出国

### 3 写真

	
<p>3月11日 歓迎会で挨拶する横井裕外務省外務報道官（東京都）</p>	<p>3月11日 歓迎会で、江田五月日中友好会館会長と懇談（東京都）</p>
<p>3月11日 外務省外務報道官横井裕在欢迎会上致词（东京都）</p>	<p>3月11日 在欢迎会上，和日中友好会馆会长江田五月恳谈（东京都）</p>
	
<p>3月11日 フジテレビ訪問(東京都)</p>	<p>3月11日 外務省「広報文化外交」に関するブリーフ(東京都)</p>
<p>3月11日 访问富士电视台(东京都)</p>	<p>3月11日 外務省 关于“宣传文化外交”的讲座(东京都)</p>
	
<p>3月11日 NHK 訪問(東京都)</p>	<p>3月11日 共同通信社訪問(東京都)</p>
<p>3月11日 访问NHK(东京都)</p>	<p>3月11日 访问共同通信社(东京都)</p>



3月12日 東京大学先端科学技術研究センター  
竹川暢之准教授の環境問題のレクチャー  
(東京都)



3月12日 東京大学先端科学技術研究センター  
レクチャー(東京都)

3月12日 東京大学先端科学技術研究中心  
竹川暢之の副教授关于环保的讲演(東京都)

3月12日 東京大学先端科学技術研究中心講座  
(東京都)



3月12日 クールジャパンに関する自由取材  
(原宿)

3月12日 关于COOL JAPAN主题的街头采访  
(原宿)



3月13日 北海道新聞社訪問(札幌市)

3月13日 访问北海道新闻社(札幌市)



3月13日 東奥日報社訪問(青森市)

3月13日 访问东奥日报社(青森市)



3月13日 東奥日報社訪問(青森市)

3月13日 访问东奥日报社(青森市)



3月14日 武虹剣団長(左)が三村申吾青森県知事(右)と面会(青森県)

3月14日 武虹剣団長(左)和青森県知事三村申吾(右)见面(青森县)



3月14日 弘前城公園参観(弘前市)

3月14日 参观弘前城公园(弘前市)



3月14日 田中屋工房「津軽塗資料館」視察(弘前市)

3月14日 考察津轻涂工房田中屋(弘前市)



3月14日 津軽藩ねぶた村 津軽三味線に関するレクチャー(弘前市)

3月14日 弘前睡魔村 介绍三味线(弘前市)



3月14日 青森県産業技術センターりんご研究所訪問(黒石市)

3月14日 访问青森县产业技术中心苹果研究所(黑石市)



3月14日 奥膳懐石翠明荘 日本のもてなし文化に関するレクチャー(弘前市)

3月14日 翠明庄 日本餐饮服务文化的介绍(弘前市)



3月14日 クリプトン・フューチャー・メディア(株)  
バーチャルアイドル“初音ミク”に関するレクチャー  
(札幌市)

3月14日 CRYPTON FUTURE MEDIA 公司  
介绍虚拟偶像“初音未来”(札幌市)



3月14日 “初音ミク”関連コンテンツ視聴  
(札幌市)

3月14日 观看“初音未来”视频(札幌市)



3月16日 パナソニックセンター東京視察  
(東京都)

3月16日 参观松下电视中心东京(東京都)



3月16日 三鷹の森ジブリ美術館参観(三鷹市)

3月16日 参观三鷹之森吉卜力美术馆(三鷹市)



3月16日 歓送報告会 訪日成果報告(東京都)

3月16日 欢送报告会汇报访日成果(東京都)



3月16日 歓送報告会で総括を述べる武虹剣団  
長(東京都)

3月16日 在欢送报告会武虹剑团长作总结  
(東京都)

## 4 参加者の感想

### 【第1分団】

#### ○日本で印象に残ったこと

1. 何事にも責任をもって、まじめに取り組み、計画周到で、時間厳守。代表団の手配もきちんと細部まで心配りされ、とても良かった。歓送会で団員の誕生祝いをするなど、日本人の厳しさの中にも温かい一面が印象に残った。バス乗降の際に荷物を並べてくれたり、細部まで手を抜かない日本人の仕事の仕方を目のあたりにした。
2. 一般の人とても親切だが、英語があまり通じず、外国人とのコミュニケーションに少し問題があり、東京の国際都市というイメージを損なうのではないかと。
3. 東京も青森も空気がきれいで、環境保護が効果を上げていることは素晴らしい。東京大学先端科学技術研究センターのブリーフで環境保護の理念や施策について理解を深めることができた。そこから多くのことを学び、参考にできる。

帰国後、周囲の友人や同僚に、日本の経済、科学、メディア分野の成功例を伝え、日本人がまじめで温かく、友好的なことを話して、中日間の相互理解を促したい。是非、再訪したい。ありがとう、収穫は多かった。

○ジャーナリストとして、従来のメディアが衰退しつつあるという世界共通の問題に対して、日本では、積極的に対応していたことが印象に残った。東奥日報社では、対策として、子供向け新聞『Juni Juni』を発行し、子供が関心のある内容、趣味やアニメ、トレンド情報を掲載しているとのこと。このような試みは参考にできる。現在、従来のメディアの若い読者が減っている中、小さいときから読者として育て、新聞の情報伝達という機能を調整しながら、新聞をさらに楽しめるものとしているのは、とてもいい方法だと思った。

今までメディアを通じて日本を多少は理解していたが、今回の全面的な触れ合いは、全く違うものだった。日本人はまじめで、仕事でもプライベートでも熱心で丁寧だが、私たちからすると疲れるのではないかと思う。しかし、日本の科学分野での実績は、一つにはその姿勢がもたらしたものであろう。また、伝統文化を大切にするとともに、ポップカルチャー牽引の基礎にして、伝承し、発展させており、文化も国民性も代々受け継がれている。

○津軽塗は「ばか塗り」と呼ばれる細かい工程を経て製作され、何層も塗り、何度も磨いて50もの工程を経て独特の色彩が生み出される。

「ばか塗り」には、日本人の「ばかの精神（※補足：ばかになるくらい熱中する、全身全霊を注ぐ）」が映し出されている。随所でこの精神がみられる。店員は、いつも笑顔で挨拶し、車も行儀よく走行し、人がいれば停車する。トイレの便座も、日本人の「どうでもいいことにも全力で挑む性格」で温水、消臭、消音機能をつけ、気持ちよく用を足せる。

日本人の「ばかの精神」は、いつから始まったのかわからないが、中国の古語が思い出された。「慢工出細活（時間をかけて良い物をつくる）」「精益求精（さらに磨きをか

ける)」。中国の精神哲学が、日本の発展の原動力になっている。中国人は深く考えてみる必要がある。

○日本での伝統文化の継承は、中国も参考にできる。伝統楽器の三味線は現在でも普及しており、青森県では小中学校の授業に取り入れ、多くの人に受け入れられている。奏者の葛西さんの話では、三味線は伝統楽器として、現代音楽ともコラボレーションしているとのこと。EXILEなどポップミュージックとも共演したそう。伝統を継承しつつ、新しい創意を加えている。伝統文化を継承し、広めていく日本の手法は、中国の伝統文化にも参考になる。

### 【第2分団】

○クールジャパン、食文化、大衆文化、生活文化についてある程度理解できた。原宿で取材し、流行、ハイテク、ポップカルチャーに、日本人のまじめさ、細かさ、規則正しさもすべてクールジャパンの重要な構成要素だと分かった。中国のジャーナリストとして、両国のメディアは、お互いの素晴らしい文化をPRする役目を果たし、友好の懸け橋にならなければと思った。

○訪日前に、日本や日本人について紹介した本をたくさん読んだので、日本や日本人の性格についてある程度理解していたつもりだが、実際に日本人に接してみて、その謙虚で礼儀正しく、責任をもって仕事する姿に感動した。日本の現在の成果は、日本人の資質と切り離せない。中国の将来の発展に大いにヒントをくれると思う。「1万冊の本より、1万キロ歩け」である。日本、日本人を本当に理解するには、日本に来て、見て、交流してみるのが一番である。

私はテレビ記者なので、専門分野のNHK訪問は収穫が大きかった。NHKは番組製作に活気があり、イノベーションの精神にあふれているだけでなく、ハイテクテレビの開発や応用にも力を入れ、業界の先端を走っている。開発中のスーパーハイビジョンは特に印象深かった。成功したテレビ局は番組に自信をもち、且つ、技術も一級というのをNHKは実現しており、学ぶべきことは多い。

○東奥日報社を訪問した際、社員が温かく迎えてくれたこと、細かい仕事ぶりが最も印象に残った。バスを降りたときから、心を開いて古い友達のように交流でき、和やかに過ごせた。終了間近に、超特急で交流訪問の号外を印刷してくれた効率の高さと心配りに、親しみと誠実さを感じた。新聞社や7日間で見聞きしたことを、帰国したら周りの家族、同僚にこう伝えたい。

1. 伝統文化を継承し、発展させるため、現代文化を受入れ、融合させて、さらに良くなっている。
2. 人本位の成果。教育、環境保護、科学の成果が、人々の生活に活用され、人の生活を快適に、安心できるものにするという目標をまさに実現している。
3. 日本人は高い資質を持ち、文化的で、包容力がある。

4. 日本人は中国人、外国人に友好的である。

中日間の交流、協力がさらに進み、隣国として友好的に理解を深め、友情が続くことを願っている。

○日本はずっと一番旅行したい国だった。今までに2回の旅行で、ざっと日本を見て回ったのとは違い、今回は、自然環境、人文、風土人情を深く理解できた。

予想外だったのが、本州最北端の美しい、歴史のある青森を見られたことだ。そびえる弘前城に、それを静かに守る勤勉な地元の人々、深みのある懐石料理、熱烈なねぶたの伝統、心にしみる温泉、すべてが青森を去りがたくさせた。

行政と人々が共に役目を果たして伝統文化を伝承、保存していた。青森の翠明荘では、女将が春色の着物で迎えて、懐石料理と茶道の神髄を見せてくれ、大いに収穫があった。ねぶたの家では、100年以上の伝統の祭りを守り、伝統文化を伝承するとともに、民衆力、魅力を高め、今も毎年開催し、積極的に熱く参加して、街の魅力を高めていた。

○快適な環境と交通には感激した。青空、緑、澄んだ水、友好的な人々、日本の魅力を満喫した。街のどこにもゴミひとつ、塵ひとつない。交通もスムーズでびっくりした。みんな交通規則を守り、車は歩行者優先で、車も人も気持ちも澄んでいる。

探究心にも感心した。問題を見つけたら、積極的に解決策を探求していく精神が日本にはある。青森県産業技術センターりんご研究所では、りんごを切った後の変色について研究し、新しい品種を開発していた。また、商店やトイレでは、入口1カ所で並んで待って不公平にならないようにしていた。

まじめで、細やかなところにも驚いた。クールジャパンの取材の際、質問の答えに自信がないと、友達に聞いたり、電話したり、深く考えてから回答する青年。資料からホテルのキーの置き場所まで、細かく手配してくれた日本側スタッフ。

とにかく、百聞は一見にしかず。帰国したら、意欲と活力に満ちて、トレンドィで科学的な日本、礼儀正しく、細やかで、まじめな日本人を周りの人に詳しく話して、是非一度、自ら機会を作って日本を訪れるよう勧めたい。

○今回の訪問で最も印象に残ったのは、原宿で取材した1人の青年が話した言葉だ。「クールジャパンというのは街の流行だけでなく、日本人が他人を尊重する心だと思う。人に接するとき、礼儀正しく、節度をわきまえているのは、他の国には見られない。誇りに思っている。」

そこから、クールジャパンの本質は、他人、他国を尊重し、他人、他国を思いやること、まじめで勤勉、細やかであることだと知った。これは中国の儒教と相通じる。帰国したら周りの友人に、日本人は友好的で、中国と友好的関係を発展させたいと願っていると伝えたい。両国が互いに尊重し、理解し、信頼することで、積極的に関係を発展させていくことができればと思う。

### 【第3分団】

○活動に参加して、日本と日本人に対する認識が具体的になった。以前は、近隣の強国に対して少し感情的であったが、訪日して、感情の壁を乗り越えてこそ、より日本を知り、問題を解決することができると感じた。

日本の国土は決して大きくないが、数日で春と冬を体験した。東京はもう春の装いだが、北海道は一面雪景色だ。物も人も同じで、日本には友好的な人もいるが、温かくない、しいては友好的でない人もいる。すべての人を色眼鏡で見てはいけない。この国の多様性と複雑さを認識しなくてはならない。また、日本の文化程度の高さには敬服した。日本人は、みんな良い教育を受けていて、コミュニケーションに長け、すすんで人を助けてくれる。

若者の新聞離れという問題は、日本にもあった。近年、インターネットやニューメディアの台頭で、テレビ、新聞に代表される従来のメディアの存在が危うくなりつつある。フジテレビでも、昨年「メディアプロデュース部」を設置し、ネット上の情報を収集していた。北海道新聞では、読者クラブ等の方法で、情報ルート確保や市場開拓を行っていた。どんな手段であれ、国内外のメディアが直面している競争の重圧は大きくなるばかりで、イノベーションしていかなければ、発展の道は開けない。メディア訪問で、もう一つ印象に残ったのは、日本のメディアが地元を愛し、誇りに思っていることで、伝えたいテーマを細かく、ストーリー性を持たせてうまく表現している点は、参考にできると思った。

○成田空港に到着して、日本の地を踏みしめたとき、想像した青空とは違い、意外にも一面の砂埃だった。しかし、すぐに、東京大学先端科学技術研究センターを訪れ、竹川准教授のブリーフの「排出に国境はあっても、大気に国境はない」という言葉に、感銘を受けた。違う地域に住んでいても、みんな環境保護、高齢化、エネルギーの安全といった同じような問題に直面しているのだ。

中日両国は隣国として古くから付き合いがある。今回の訪問で、本を通じて理解した日本を生で感じることができた。行程中に感じた、日本人の礼儀正しさ、漢字を発展させ、伝統を継承し、仕事に集中する姿は、同じ東南アジア圏として親しみを感じた。また、ゴミの分別、高齢化の解決法、アニメ産業の発展、大気汚染対策面での探究心と経験は、大変学ぶことが多い。

いい友達は鏡みたいなものだ、自分の本当の姿を映し出してくれると言った人がいた。日本はそんな友達になれる。日本では中国の歴史の足跡と未来の発展を見ることが出来るからだ。いかにして長所で短所を補い、共に発展して、東南アジア文明を花開かせるか、お互いにもっと冷静になって考えるべきだ。現実には、両国の関係は良くなったり悪くなったりで、いろんな障害もあるが、実際に日本を訪問して、それが残念なことだと、より強く感じた。

○1. 日本は健康意識が高く、スマートな体形で、健康な食事をとり、食品、化粧品の健康にも注意している。

2. 日本は漫画が成熟しており、想像力に満ちて、製作過程も非常に細かい。

3. ニューメディアを利用したバーチャルアイドル「初音ミク」は、インターネットで社会を変える非常に良い模索、試みである。
4. 東京大学先端科学技術研究センターの研究モデルと思考法は、中国も参考にできる。学際的研究の交流、協力を進めるべきだ。
5. 中日文化は相違点より共通点の方が多い。もっと協力し、交流していくべきだ。中日の青年間の交流は中日友好にとっても意義が大きい。
6. 中日両国は新しい時代に向かって共通の問題を抱えている。両国で協力し、討論して、一緒に問題を解決し、生活をより良くしよう。

○日本のポップカルチャーを代表する秋葉原を訪れたが、アニメショップ、メイドカフェ、「萌え」がいたるところで見られた。秋葉原は決して大きくないが、ポップカルチャーの中心地で、数えきれないほど多くの発見があった。

アメリカの学者が「日本はアニメを映画や本と同じ地位まで高めた国だ」と言っていた。事実その通りで、秋葉原の街では老若男女がアニメ商品を探し、まさに国民漫画で、皆、自分が感動する漫画を知っており、そこからカルチャー産業も生まれた。

アニメは日本のカルチャー産業の一つにすぎず、初音ミク、三鷹の森ジブリ美術館など、日本の「クール」カルチャーはいたるところにあり、驚嘆するばかりだった。

日本人は礼儀正しく、まじめに事に当たり、環境保護意識も進んでいる。整備された街、おいしい食事、先端科学も忘れられない。

今回は忘れられない訪日となった。帰国後は、資料と考えを整理し、訪日で見聞きし、感じた真実を客観的に周りの人に伝えたい。両国の友好が永遠に続くことを祈る。